

令和7年度 小地域福祉活動セミナー

		押上一丁目町会
団体概要		墨田区で一番最初にできた小地域福祉委員会。「向こう三軒両隣」の精神で始まった。 ふれあい委員は婦人部が中心。月に一度、サロンや委員会で集まっている。 近所付き合いを基盤に顔見知り同士、みんなお互いを見守っている。
組織のベースについて (活動主体)		町会ベース 年に2回(9・3月)戸別訪問。9区画を役員2名でペアになり、気になる高齢者宅をまわる。町会員、非会員に関わらず訪問。 月に一度、ふれあいサロンないし役員会が行われ、婦人部の方が集まっている。
立ち上げ について	きっかけ	初代代表の町会長が、福祉に携わっていた区議だったこともあり、行政から声がかかった。顔見知り同士、みんなお互いを見守る。代表の奥様がカレーを作る活動をして いたこともあり、その仲間も入ってくれることもあった。
	活動者の探し方 引き込み方 声のかけ方	基本的にはお願いして入ってもらっている。家庭に踏み込む難しさや、個人情報の扱いについての理解も必要で、そういない。長く活動しているメンバーが、この人ならと見 つけている。 新しいマンションで町会活動に比較的参加してくれる流れがあり、今後に期待している。
	見守り対象者の選び方	年に一度、町会長が名簿を借りており、そこから高齢者をピックアップ。知らない名前の方は、住んでいないことも多く、各班長が様子を確認している。
	立ち上げてから活動までの流れ	
	始めるまで難しかったこと	墨田区にはモデルがなかったので、東社協から情報をもらい勉強会に参加したと聞いている。
活動 について	見守りの方法工夫や特徴	お土産を持って、2人1組で回っている。(兼務されている方も) 以前、独居男性宅に訪問時、つかまってしまい帰れなくなることがあった。以降、必ず2人体制で訪問する ようにしている。
	活動者同士の情報共有	ふれあい委員同士は記録だけではない情報があり、月に一度顔を合わせることで、情報を共有している。小さな連絡や画像はLINEを活用。
	個人情報の取り扱い	委員は取り扱いについて署名しているが、ここ最近、個人情報の取り扱いが難しくなっている。訪問先で、なんの権利で訪ねて来たのかと言われることもあるので、訪問で はなく日常での見守り形で把握している。
活動が始まってからの 地域の変化・地域からの声		あとから地域に入ってきて、訪問を楽しみにしてくれている方もいる。
その他		継続していくにあたり、人のつながりを維持しないと難しい。どうやって構築するかは、サロンが手っ取り早い。 地域でやっていると集まる人が決まっている。 今やっている活動を続けることに重きを置いている。どこも維持が大変だと思う。日常の人づきあいが長続きの秘訣。 住む方が変わっていく中で、長く行って来た活動をどのように維持していくか。